

令和7年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	135	48	40	6.2	6.0	466	
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	489	
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	503	

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	158	59.9	44.2	48.9	44.2	49.8	4.4	4.7	7.6	4.2	3.7
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月2日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	178	61.1	43.1	48.1	41.3	42.6	5.9	3.7	12.3	4.3	6.9
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	150	61.3	56.9	53.0	57.9	59.9	10.5	3.1	10.1	6.4	5.9
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	60.3	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	158	107.0	101.0	139.9	94.1
	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4
10月20日						

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
		(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	178	26.58	28.79	40.54	53.38	77.68	7.98	196.35	18.49	41.05
	大阪市	—	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	—	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	—	22.49	22.95	46.81	46.80	53.89	9.10	168.74	11.39	48.36
	大阪市	—	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	—	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 喜連中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト(1年)

【成果と課題】

< 国語 >

全体の平均正答率では府平均を1.8ポイント、市平均を1.4ポイント下回り、無回答率では府平均を0.3ポイント、市平均を1.4ポイント上回っている。

領域別での平均正答率では、

- ・言葉の特徴や使い方に関する事項において府平均を1.0ポイント、市平均を0.8ポイント下回っている。
- ・情報の扱い方に関する事項において府平均を0.1ポイント、市平均を0.3ポイント下回っている。
- ・我が国の言語文化に関する事項において府平均を0.9ポイント上回り、市平均は0.6ポイント上回っている。
- ・話すこと・聞くことに関する事項において府平均を1.1ポイント、市平均を1.1ポイント下回っている。
- ・書くことに関する事項において府平均を0.7ポイント、市平均を0.8ポイント下回っている。
- ・読むことに関する事項において府平均を1.1ポイント上回り、市平均を0.8ポイント上回っている。

< 社会 >

全体の平均正答率では市平均を1.4ポイント下回り、無回答率では市平均を0.1ポイント上回っている。

領域別での平均正答率では、

- ・地理的分野に関する事項において市平均を1.6ポイント下回っている。
- ・歴史的分野に関する事項において市平均を1.2ポイント下回っている。

観点別での平均正答率では、

- ・知識・技能分野に関する事項において市平均を2.0ポイント下回っている。
- ・思考・判断・表現分野に関する事項において市平均を0.3ポイント上回っている。

< 数学 >

全体の平均正答率では府平均を3.7ポイント、市平均を4.6ポイント下回り、無回答率では府平均を1.3ポイント、市平均を2.5ポイント上回っている。

領域別での平均正答率では、

- ・数と式に関する事項において府平均を3.0ポイント、市平均を3.4ポイント下回っている。
- ・図形に関する事項において府平均を0.4ポイント、市平均を0.1ポイント上回っている。
- ・関数に関する事項において府平均を1.1ポイント、市平均を1.3ポイント下回っている。

< 理科 >

全体の平均正答率では市平均を5.1ポイント下回り、無回答率では市平均を2.7ポイント上回っている。

領域別での平均正答率では、

- ・「粒子」に関する事項において市平均を8.1ポイント下回っている。
- ・「生命」に関する事項において市平均を8.5ポイント下回っている。

< 英語 >

全体の平均正答率では府平均を5.3ポイント、市平均を6.6ポイント下回り、無回答率では府平均を1.0ポイント上回り、市平均を1.8ポイント上回っている。

領域別での平均正答率では、

- ・聞くことに関する事項において府平均を1.0ポイント、市平均を1.5ポイント下回っている。
- ・読むことに関する事項において府平均を2.8ポイント、市平均を3.2ポイント下回っている。
- ・書くことに関する事項において府平均を1.5ポイント、市平均を1.9ポイント下回っている。

【今後に向けて】

< 国語 >

「自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる」の問題の正答率が府平均と比べて低かった。スピーチや話し合いなどの言語活動を充実させていく。また、「読み手を意識し、必要な情報を取捨選択して書くことができる」の問題の正答率も府平均と比べて低かった。作文や記述課題などの取り組みなど継続的な指導を引き続き行っていく。

< 社会 >

領域別に見ると、いずれの分野においても基礎的・基本的な内容の定着に課題が見られ、知識の整理や反復学習の在り方について改善の余地があると考えられる。観点別では、基礎的な知識の定着に課題はあるものの、思考・判断・表現分野においては、市平均を0.3ポイント上回っており、資料を基に考える力は一定程度育成されていると考えられる。今後は、思考力を伸ばす授業を継続し、用語確認や振り返りの充実を図り、基礎学力の定着を強化する。

< 数学 >

授業開始時のチェックテストを継続し、「数と式」の範囲における基礎的な知識・技能の定着を再徹底する。さらに強みである図形分野の視覚的理解力を「関数」や「文字式」の立式にも応用し、思考・判断・表現の向上を図る。これらの取り組みを通じ、過去3年間で最少となった府平均との差を次年度さらに縮小させる。

< 理科 >

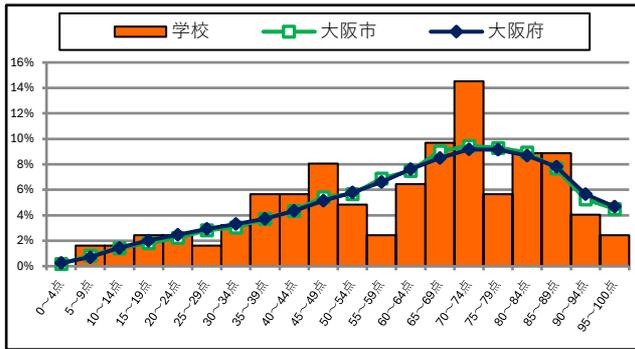
基礎・活用の両面において大きな課題が見られる。今年度、単元テストを順次実施してきたが、より着実な基礎・応用の定着に結び付けることができるよう、テストの分析、復習方法について指導し、実力育成に努めたい。概要によれば、正答率の度数分布において2つのピークが見られ、40%台と70%台に顕著な集団が存在していることが分かった。これらのボリューム層に効果的な学習に取り組む姿勢、方策を提供していきたい。

< 英語 >

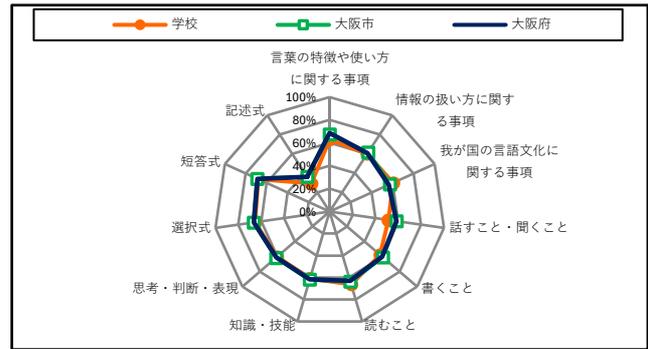
今回の結果でわかったことは、特に「読むこと」の領域に課題が見られた。一方で、「聞くこと」については、府平均との差が比較的小さく、日頃の授業で行っている音声活動やペアでのコミュニケーション活動の成果が一定程度表れていると考えられる。今後は英文の内容を正確に読み取る力を育成するため、音読活動や短い英文を用いた読解活動を継続的に取り入れるとともに、内容理解を確認する活動を充実させる。また「書くこと」についても既習表現を活用した英作文活動を取り入れ、生徒の表現力の向上を図っていく。

【国語】

【得点分布】

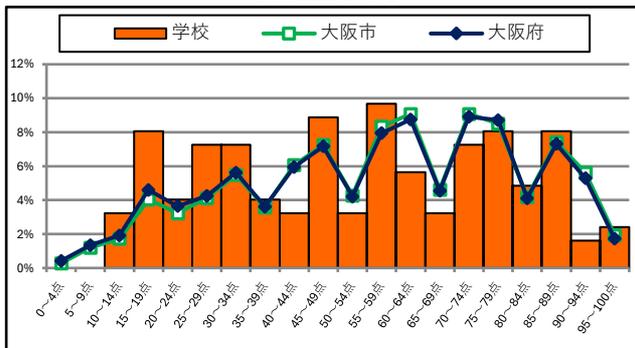


【内容・観点・問題別の分布】

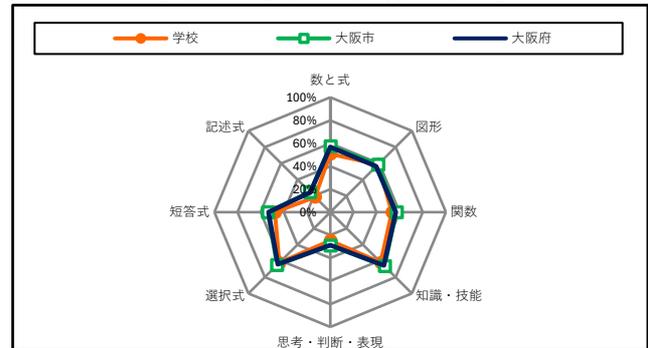


【数学】

【得点分布】

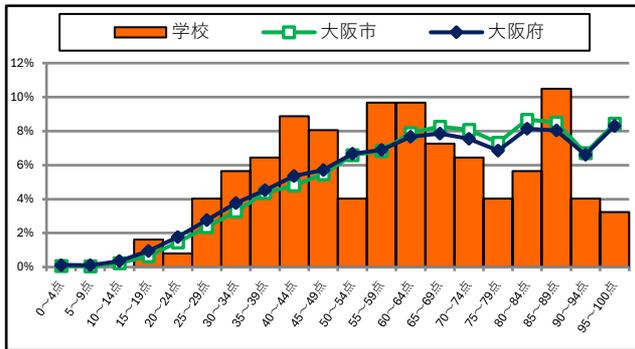


【領域・観点・問題別の分布】

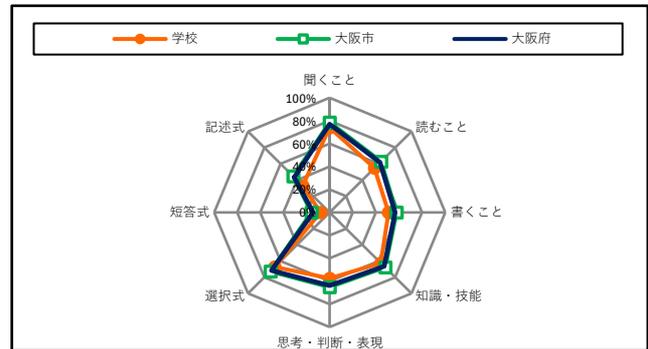


【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

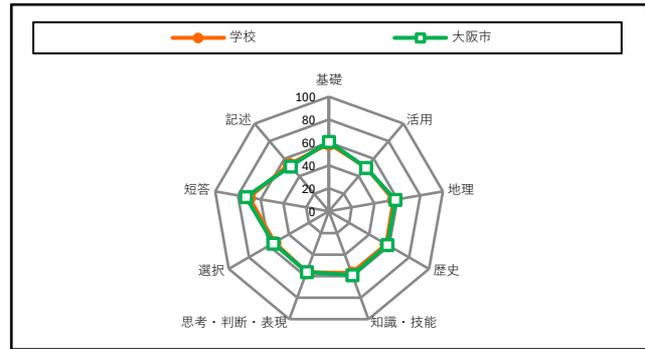


【 社 会 】

【正答率分布】



【領域・観点・問題別の分布】

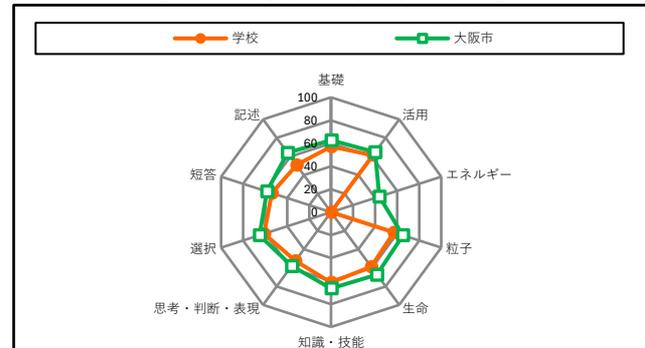


【 理 科 】

【正答率分布】



【領域・観点・問題別の分布】



※「エネルギー」と「粒子」はいずれかを学校で選択しています。